

## 1. 圃場の選定と排水対策

「そば」は、初期の湿害に極めて弱い作物です。条件の良い圃場を選定するとともに、排水対策を徹底し、発芽不良や立枯れなどの発生を防ぎましょう。

### (1) 圃場選定時の注意点

- ①単作の場合：水はけの良い圃場を選び、早めに額縁排水溝の設置等の排水対策を行いましょ。
- ②後作の場合：そばの播種適期を考慮し、大麦跡やWC S跡等の圃場を選びましょ。水稻跡の場合でも、収穫の早い早生品種の圃場を選び、稲刈直後に排水対策を実施して早く圃場を乾かしましょ。

### (2) 排水対策

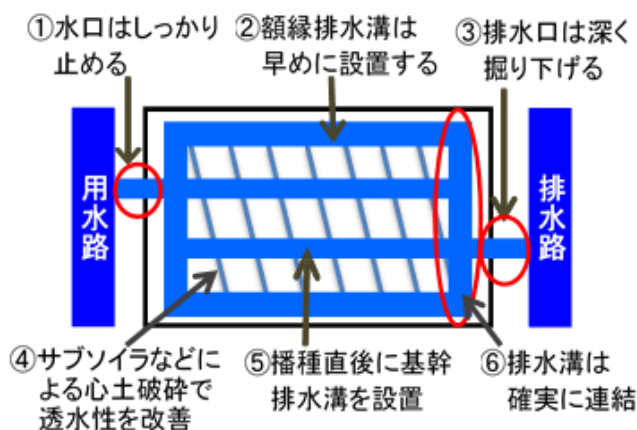


図1 排水対策例

#### <ポイント>

- ・用水路や水口からの漏水をしっかり防止する。
- ・額縁排水溝は早めに設置（大麦跡では額縁排水溝の手直し）し、深く掘り下げた排水口へ連結する。
- ・透水性の悪い圃場では心土破碎を実施し、圃場の乾きを促進する。
- ・播種後は基幹排水溝（1.5～2m間隔）を設置し、額縁排水溝や排水口と確実に連結する。

## 2. 土づくり資材の施用

pH6.0～6.5を目標に石灰質資材(粒状貝化石 100kg/10a)を施用するとともに、堆肥等を積極的に施用しましょ。

## 3. 播種作業

天気予報を参考に、**適期**を逃さず**播種**！



表1 播種時期及び播種量

播種時期	播種量		目標苗立ち数
8月中旬～下旬	条播	4～5kg/10a	100～120本/m <sup>2</sup>
	散播	6～7kg/10a	

\* 播種晩限:9月10日頃(参考:初霜の平年値は11月20日頃)

### (1) 播種時期及び播種量

- 播種作業は、平坦地では8月中旬から下旬（中山間地は8月上旬から）を目安に行いましょ。
- 播種時期が早すぎると開花時の高温による稔実不良や倒伏の危険が、遅すぎると初霜に遭う危険があるので、適期播種に努めましょ。
- そばは茎が中空で根張りが浅いため倒伏しやすく、雷雨や台風等の強めの雨風で被害が大きくなる場合があります。危険回避のため**播種時期を分散**させましょ。
- 耕起後、播種前に雨に遭うと、その後の碎土・整地・播種作業が困難になります。一連の作業は、天気の良い日に一日で行いましょ。
- 発芽時の過湿は著しく発芽率を下げるため、**播種後に大雨が予想される場合は、播種作業を延期**して下さい。



播種後2日目に冠水した圃場

冠水した部分が出芽不良となっている。

### (2) 播種方法

- ①条播：ドリルシーダー等を使用し、**播種深度3cm程度、条間30cm程度**を目安に播種を行う（トラクターに片培土機等を装着することで、排水対策も同時に実施できる）。
- ②散播：ロータリーで耕起後、背負式動力散布機等で均一に種子を散布し、ハローで圃場表面を浅く攪拌して覆土する。



播種の様子(条播)

### (3) 基肥

- 基肥は、窒素成分量で**2kg/10a程度**を目安とし、地力に応じて施肥量を加減してください。
- 肥沃な圃場や前作物の肥効が残っている場合は、基肥は施用しないようにしましょ。
- 初期の生育量が不足した場合は、開花始め頃（播種後20～30日）までに窒素成分で2kg/10a程度を追肥しましょ。

【基肥例】  
BB084:20kg/10a程度

窒素が多すぎると過繁茂になり、倒伏しやすくなるので注意！